

とらお
鈴木 虎雄

明治11年（1878）粟生津の長善館の惕軒の五男に生まれた文化勲章受章者。

虎雄は豹軒と号し、鈴木文臺の孫。13歳で上京し東京英語学校初等科、東京府尋常中学、第一高等中学校。明治33年に東京帝国大学文科大学漢学科を卒業する。翌年に日本新聞社に入社、後に義父となる陸羯南が主筆で正岡子規もいた。明治36年に日本新聞社、台湾日日新報社の漢文部主任。同37年末に東京へ戻る。

東京高等師範学校（東京教育大学、筑波大学の前身）の講師・教授などを経て、東京同文書院などにも講義をする。明治41年（1908）に京都帝国大学文科大学助教授。大正8年（1919）教授になって昭和13年まで30年間にわたり教鞭をとる。この間、大正5年から2ヶ年の中国留学、帰国後に文学博士になる。昭和13年退官し、京都大学名誉教授に推される。

昭和33年に文化功労者となり、同36年に文化勲章を受章する。昭和13年の退官記念に「豹軒詩鈔」14巻（千五百余首）を出版。昭和31年の喜寿記念に「豹軒退休集」17巻（七千余首）を出版。短歌集では葯房と称し「葯房主人歌草」などがある。

昭和38年、86歳で亡くなった中国古典文学研究の世界的権威者である。

